

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	大学院の設置								
フリガナ設置者	コリツカ ^イ カ ^ク ホジ ^ン エヒメケンリツイヨウキ ^ジ ユツカ ^イ カ ^ク 公立大学法人愛媛県立医療技術大学								
フリガナ大学の名称	エヒメケンリツイヨウキ ^ジ ユツカ ^イ カ ^ク イ ^カ ク ^{イン} 愛媛県立医療技術大学大学院 (The Graduate School of Ehime Prefectural University of Health Sciences)								
大学本部の位置	愛媛県伊予郡砥部町高尾田543番地								
大学の目的	「地域の保健医療を支える」を基本理念として、保健医療の分野に関してより高度で専門的な学術理論及び実践能力を修得するとともに、総合的な調整能力・指導力・教育力等を有する高度専門職業人を養成することにより、本県の保健医療関係職種の質の向上を図り、もって県民の生涯を通じた健康づくりと保健医療水準の向上に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的	① 地域の保健医療機関に就業している専門職（看護職・臨床検査技師等）が、卓越した実践能力・総合的な調整能力を發揮できるための高度専門職業人の養成 ② より高度な教育力・研究力を修得し、保健医療職の教育機関や実践の場において教育的な役割を發揮できる人材の育成 ③ 公立大学として、県民の期待に応え得る質の高い教育及び研究水準を維持するとともに保健医療に係る新たな課題に対応できる大学として発展すること ④ 地域における保健医療活動を支える教育・研究拠点としての機能強化								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】 保健科学部 看護学科・臨床検査学科 14条特例の実施
		年	人	年次人	人				
	保健医療学研究科 [Graduate School of Health Sciences] 看護学専攻 (Course of Nursing) 医療技術科学専攻 (Course of Medical Technology) 計	2 2	5 3	— —	10 6	修士(看護学) 修士(医療技術科学)	平成26年4月 第1年次	愛媛県伊予郡砥部町 高尾田543番地	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		—							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計				
	保健医療学研究科看護学専攻	26科目	6科目	— 科目	32科目	32単位			
	保健医療学研究科医療技術科学専攻	22科目	9科目	— 科目	31科目	32単位			
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員
		教授	准教授	講師	助教	計	助手		
	新設	保健医療学研究科看護学専攻 (修士課程)	7人 (7)	5人 (5)	2人 (2)	0人 (0)	14人 (14)	0人 (0)	9人 (9)
		保健医療学研究科医療技術科学専攻 (修士課程)	8人 (—)	3人 (—)	3人 (—)	0人 (0)	14人 (14)	0人 (0)	1人 (1)
		計	15人 (15)	8人 (8)	5人 (5)	0人 (0)	28人 (28)	0人 (0)	10人 (10)
	既設	該当なし	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)
		(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	
計		(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	
合計		15人 (15)	8人 (8)	5人 (5)	0人 (0)	28人 (28)	0人 (0)	10人 (10)	

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計			大学全体		
	事 務 職 員		12 人 (12)	4 人 (4)	16 人 (16)					
	技 術 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	図 書 館 専 門 職 員		1 (1)	1 (1)	2 (2)					
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	1 (1)	1 (1)					
	計		13 (13)	6 (6)	19 (19)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計			借用面積 26,190.58㎡ 期間22.4.1~ 27.3.31 借用面積4,489.79 ㎡ 期間25.4.1~ 27.3.31 (貸与者：ともに 愛媛県)		
	校 舎 敷 地	23,180.37 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	23,180.37 ㎡					
	運 動 場 用 地	7,500.00 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	7,500.00 ㎡					
	小 計	30,680.37 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	30,680.37 ㎡					
	そ の 他	0 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	0 ㎡					
	合 計	30,680.37 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	30,680.37 ㎡					
校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計			借用面積2,787.68 ㎡ 期間25.4.1~ 27.3.31(別館、媛 県より)			
	15,491.23 ㎡ (15,491.23 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	15,491.23 ㎡ (15,491.23 ㎡)						
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			大学全体		
	13 室	17 室	29 室	2 室 (補助職員 - 人)	1 室 (補助職員 - 人)					
専 任 教 員 研 究 室	新設学部等の名称			室 数			申請研究科全体			
	保健医療学研究科			23 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	すべて大学全体 での共用分		
	保健医療学研究科	75,114 [4,792] (73,814 [4,702])	983 [89] (983 [89])	4 [2] (4 [2])	1,468 (1,428)	4,523 (4,523)	399 (399)			
	計	75,114 [4,792] (73,814 [4,702])	983 [89] (983 [89])	4 [2] (4 [2])	1,468 (1,428)	4,523 (4,523)	399 (399)			
図 書 館	面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数					
	686.00 ㎡		74		70,000					
体 育 館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要							
	888.50 ㎡		-							
経 費 積 累 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	①は県内の学生、②は県外の学生
		教員1人当り研究費等		645千円	645千円	-	-	-	-	
		共同研究費等		10,000千円	10,000千円	-	-	-	-	
		図 書 購 入 費	3,000千円	3,000千円	3,000千円	-	-	-	-	
	設 備 購 入 費	10,000千円	2,000千円	2,000千円	-	-	-	-		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	①818千円 ②959千円	536千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			県からの運営費交付金							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	愛媛県立医療技術大学								
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	保健科学部	年	人	年次人	人		倍		愛媛県伊予郡砥部町高尾田543番地	
	看護学科	4	75	0	255	学士(看護学)	0.98	平成16年度		
	臨床検査学科	4	25	0	85	学士(保健衛生学)	1.03	平成16年度		
助産学専攻科	1	15	-	15		1.00	平成24年度			
附属施設の概要		該当なし								

教育課程等の概要

(保健医療学研究科看護学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通科目	保健医療学概論	1前	1			○			4		1				オムニバス		
	地域保健医療特論	1前	2			○			2					兼1	オムニバス		
	保健医療チーム特論	1後	1			○			3	1					オムニバス、一部共同		
	組織管理学特論	1前	1			○								兼1	集中		
	医療倫理学特論	1後	1			○								兼1	集中		
	生涯教育学特論	1前		2		○			1	1					オムニバス		
	保健医療統計解析	1後		2		○					1						
	疾病制御学特論	1前		2		○			2						オムニバス		
	英文献講読	1前		1		○			4						オムニバス、一部共同		
	小計(9科目)	-	6	7	0	-	-	-	9	2	1	0	0	兼3			
専門共通	看護管理学特論	1後		1		○								兼1	集中		
	ケア技術開発特論	1後		1		○					1			兼1	オムニバス・集中		
	看護研究方法論	1前		2		○			1	1					オムニバス		
	理論と看護実践論	1後		2		○			2						オムニバス、一部共同		
	小計(4科目)	-	0	6	0	-	-	-	3	1	1	0	0	兼2			
専門科目	臨床看護実践分野	育成支援看護学特論Ⅰ	1前		2		○			1	2					オムニバス	
		育成支援看護学特論Ⅱ	1後		2		○			1	2					オムニバス	
		育成支援看護学特論Ⅲ	1後		2		○				1	1			兼1	オムニバス	
		育成支援看護学演習	1通		2			○		1	2	1				共同	
		成熟期・慢性看護学特論Ⅰ	1前		2		○			1	1					オムニバス、一部共同	
		成熟期・慢性看護学特論Ⅱ	1後		2		○			1	1					共同	
		成熟期・慢性看護学特論Ⅲ	1後		2		○			1	1				兼1	オムニバス、一部共同	
		成熟期・慢性看護学演習	1通		2			○		1	2					共同	
		地域健康生活支援分野	精神看護学特論Ⅰ	1前		2		○			1						
			精神看護学特論Ⅱ	1後		2		○			1						
	精神看護学演習		1通		2			○		1							
	地域看護学特論Ⅰ		1前		2		○			2	1				兼1	オムニバス、一部共同	
	地域看護学特論Ⅱ		1後		2		○			2	1					オムニバス	
	地域看護学特論Ⅲ		1前		2		○			1	1				兼1	オムニバス、一部共同	
	地域看護学演習		1通		2			○		2	1					オムニバス、一部共同	
	看護教育分野		看護教育学特論Ⅰ	1前		2		○			2						オムニバス、一部共同
			看護教育学特論Ⅱ	1後		2		○			1		1				共同
			看護教育学演習	1通		2			○		2		1				共同
	小計(18科目)	-	0	36	0	-	-	-	6	5	2	0	0	兼4			
	特別研究	1後~2通	8				○		7	5	2						
小計(1科目)	-	8	0	0	-	-	-	12	6	3	0	0	-				
合計(32科目)	-	14	49	0	-	-	-	12	6	3	0	0	兼9				
学位又は称号	修士(看護学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係										
修了要件及び履修方法							授業期間等										
共通科目10単位以上(必修6単位、選択4単位以上)、専門科目14単位以上(専門共通から4単位以上、専門分野から10単位以上〔うち研究指導を受ける教員の専門領域科目から6単位〕)、特別研究8単位の合計32単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえで、本大学院が行う修士論文の審査及び最終試験に合格すること。							1学年の学期区分		2学期								
							1学期の授業期間		15週								
							1時限の授業時間		90分								

(保健医療学研究科医療技術科学専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目 ※	保健医療学概論	1前	1			○			4		1			オムニバス	
	地域保健医療特論	1前	2			○			2					兼1 オムニバス	
	保健医療チーム特論	1後	1			○			3	1				オムニバス、一部共同	
	組織管理学特論	1前	1			○								兼1 集中	
	医療倫理学特論	1後	1			○								兼1 集中	
	生涯教育学特論	1前		2		○			1	1				オムニバス	
	保健医療統計解析	1後		2		○					1				
	疾病制御学特論	1前		2		○			2						オムニバス
	英文献講読	1前		1		○			4						オムニバス、一部共同
小計（9科目）		-	6	7	0	-			9	2	1	0	0	兼3	
専門共通	臨床検査技術学特論	1後		2		○			3		1			オムニバス	
	医療技術科学研究方法論	1前		1		○			1	1				オムニバス	
	先端医療科学特論	1前		1		○			1						
	医療情報学特論	1後		2		○								兼1 集中	
小計（4科目）		-	0	6	0	-			5	1	1	0	0	兼1	
専門科目	病因解析分野	遺伝子生命科学特論	1前		2		○		1						
		遺伝子生命科学演習	1後		2			○	1						
		分子細胞生物学特論	1前		2		○		1						
		分子細胞生物学演習	1後		2			○	1						
		組織病理検査学特論	1前		2		○		1						
		細胞診検査学特論	1前		2		○			1					
		組織病理・細胞診検査学演習	1後		2			○	2	1					共同
	生体機能分野	生体防御学特論	1前		2		○		1						
		生体防御学演習	1後		2			○	1						
		感染制御学特論	1前		2		○			1					
		感染制御学演習	1後		2			○		1					
		生体機能検査学特論	1前		2		○		1	1					オムニバス
		生体機能検査学演習	1後		2			○	1	1					共同
		病態情報解析特論	1前		2		○		1		1				オムニバス
		病態情報解析演習	1後		2			○	2		1				共同
		環境保健学特論	1前		2		○				2				オムニバス
		環境保健学演習	1後		2			○			2				共同
小計（17科目）		-	0	34	0	-			6	2	3	0	0	-	
特別研究		1後～2通	8				○		8	3	3				
小計（1科目）		-	8	0	0	-			13	3	3	0	0	-	
合計（31科目）		-	14	47	0	-			13	3	3	0	0	兼4	
学位又は称号	修士（医療技術科学）			学位又は学科の分野			保健衛生学関係								
修了要件及び履修方法							授業期間等								
共通科目10単位以上（必修6単位、選択4単位以上）、専門科目14単位以上（専門共通から2単位以上、専門分野から12単位以上〔うち研究指導を受ける教員の専門領域科目から4単位〕）、特別研究8単位の合計32単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえで、本大学院が行う修士論文の審査及び最終試験に合格すること。							1学年の学期区分			2学期					
							1学期の授業期間			15週					
							1時限の授業時間			90分					

※共通科目は、看護学専攻に同じ。

授業科目の概要

(保健医療学研究科看護学専攻)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	保健医療学概論	<p>(概要) 保健医療をめぐる環境が大きく変化する中で、保健医療に対する考え方やその担う役割も時代とともに変化発展し今日に至っている。本科目では、保健医療に対する考え方の変遷や今日的課題について総合的に概観するとともに、保健医療における専門分野が担う役割と課題について毎回教員からの話題提供を受け、それぞれの立場を踏まえた保健医療への貢献についてディスカッションを重ね、保健医療に対する考察を深める。これを通して自身の学修の方向性や役割認識の基盤とする。</p> <p style="text-align: right;">(科目責任者 △1中西純子)</p> <p>オムニバス方式&一部共同 全8回：オムニバス6回、共同2回 △1中西純子／3回)</p> <p>保健医療の進歩発展、保健医療に対する考え方の変遷、チーム医療の発展、保健医療における今日的課題と対策</p> <p>慢性期医療における現状と課題 慢性看護学からの保健医療への貢献 △7草薙康城／1回)</p> <p>急性期医療における現状と課題 臨床医学からの保健医療への貢献 △4玉内秀一／1回)</p> <p>臨床検査学領域からみた保健医療への貢献 △12鳥居順子／1回)</p> <p>保健医療統計からみた保健医療の現状と課題 公衆衛生学領域からみた保健医療への貢献 △1中西純子／△4玉内秀一／△2野村美千江／△7草薙康城／△12鳥居順子／共同2回)</p> <p>これからの保健医療のあり方について各自がプレゼンテーションを行い、全教員とともに総括討論を行う。</p>	オムニバス方式、一部共同
	地域保健医療特論	<p>(概要) 地域保健医療に関する諸外国とわが国の現状と課題を探究し、地域に根ざした保健医療を展開する理論と方法を探究することによって、地域保健医療のリーダーとして、人々の生活実態に即したケアシステムの構築や予防活動を実践できる力を高める。</p> <p style="text-align: right;">(科目責任者 △2野村美千江)</p> <p>オムニバス方式 全15回 △2野村美千江／7回)</p> <p>わが国の保健医療福祉制度・施策の歴史的過程－健康課題の変遷と社会背景の探究、ヘルスプロモーション理念に基づく健康支援－住民参加による地域づくり型保健活動、地域特性やその強み・資源を活かす支援方法の探究、文献渉猟・既存資料調査・フィールド実践から考察、課題学習とプレゼンテーション △16斎藤 功／4回)</p> <p>疫学研究に基づく疾病予防と健康管理、疾病罹患動向の観察と疾病分布規定要因、疾病罹患動向の予測と疾病予防活動の優先順位、地域保健医療に関するわが国の現状分析、諸外国との比較、貧困・</p>	オムニバス方式

授業科目の概要

(保健医療学研究科看護学専攻)

科目 区分	授業科目の 名 称	講義等の内容	備 考
		<p>健康格差、広域感染症や災害医療保健における地域連携と課題 $\triangle 6$宮内清子 / 4回)</p> <p>地域包括ケアの理念とケアシステムの構築による人々の生活実態に即した地域社会の再生、生活習慣病・認知症・がん・難病などの健康障害をもちながら地域で生きることを支える地域包括ケアシステムに関する文献渉猟・フィールド実践からの考察、課題学習とプレゼンテーション、地域保健医療のリーダーとして人々の生活実態に即したケアシステム構築や予防活動への貢献についてディスカッション</p>	
共 通 科 目	保健医療チ ーム特論	<p>(概要) 保健医療分野においてチーム医療が目指す姿を展望する。理論を通じた現状分析力を高め、課題解決の方策を探求する。さらに文献クリティーク、チーム医療を必要とする課題に対する解決策を立案し、現場への提案・適用可能性の評価を通じてチーム医療を推進できるリーダーとしての能力を高める。</p> <p style="text-align: right;">(科目責任者 $\triangle 4$豊田ゆかり)</p> <p>オムニバス方式&一部共同 全8回：オムニバス6回、共同2回 $\triangle 6$宮内清子 / 2回)</p> <p>チーム医療において重要なマネジメント理論を概説する。またフィールドワークへの助言を行う。 $\triangle 4$豊田ゆかり / 2回)</p> <p>チーム医療を推進するための連携と協働に関して看護の視点からケアにおけるチーム医療のめざす方向と現状分析に関して概説する。さらにチーム医療を推進するためのリーダーとして必要な能力を高めるために文献クリティークを教授する。 $\triangle 8$脇坂浩之 / 1回)</p> <p>チーム医療を推進するための連携と協働に関して診断・治療におけるチーム連携の目指す方向と現状分析に関して概説する。 $\triangle 10$大崎博之 / 1回)</p> <p>チーム医療を推進するための連携と協働に関して正確な検査を行うためのチーム連携がめざす方向との現状分析に関してを概説する。 $\triangle 6$宮内清子 / $\triangle 4$豊田ゆかり / $\triangle 8$脇坂浩之 / $\triangle 10$大崎博之 / 共同2回)</p> <p>チーム医療の推進力を高めるために、自分たちの経験から現場の課題分析、解決策を検討し、その解決策を現場に提案し、提案内容に関して現場の人たちから適用可能性について評価を受け、チーム医療に対する今後の課題をディスカッションする。</p>	オムニバス 方式・一部共 同
	組織管理学特 論	<p>組織管理に関する基本的な理論・概念を理解するとともに、現実の組織が抱える諸問題に対して、管理的な側面、組織行動論の側面から検討を加え、理論・概念と現実の組織との対応関係を考え、それを応用できるようになる。</p>	
	医療倫理学特 論	<p>医療従事者として共通基盤に立つために、医療倫理学の歴史、重要概念と構造、倫理的問題を解決するための方法論を理解する。その方法論に基づき、具体的な事例を検討し、医療のあらゆる場面で遭</p>	

授業科目の概要

(保健医療学研究科看護学専攻)

科目 区分	授業科目の 名 称	講義等の内容	備 考
共 通 科 目		<p>遇する倫理的問題に対して、どのように考えて行動すればよいか判断プロセスを修得する。また、医療倫理と看護倫理の関係についても取り上げる。</p>	
	生涯教育学特 論	<p>(概要) 成人に対する教育の基盤となる成人教育学について学習し、職場の人材や学生指導のあり方を、生涯教育の視点から探究する。また、将来、組織のリーダーや管理者として、それらの知識を活用した実践現場における教育的実践の方法を探究する。</p> <p style="text-align: right;">(科目責任者 △3野本百合子)</p> <p>オムニバス方式／全15回 △8澤田忠幸／8回)</p> <p>人間の発達と学習、成人を対象とした様々な学習モデル、動機づけ理論を基に、キャリア開発のあり方や教育・研修のプログラムと評価の仕方について学ぶ。また、組織や職業との関わり方を通して、ワークライフバランスや職業人としての精神的健康のあり方について概説する。</p> <p>△3野本百合子／7回)</p> <p>成人教育学(アンドラゴジー)についての文献を読み、成人に対する教育の特徴を理解するとともに、それらの知識を使って現状の問題を改善するための方法を概説する。</p>	オムニバス 方式
	保健医療統計 解析	<p>保健医療分野における科学的実践活動及び研究で使用される主要な統計学的手法と解析法を取り上げ、目的に応じたデータ解析を実践するための知識と方法を習得する。保健医療分野で取り扱う臨床データ、実験データ、調査データを念頭に、パラメトリックな手法や単変量解析にとどまらず、ノンパラメトリックな手法、多変量解析、時系列解析なども取り扱う。また、国や地方自治体が実施・公表している主要な厚生統計調査など保健統計情報の見方と活用法についても理解を深める。</p>	
疾病制御学特 論	<p>(概要) 保健医療の実践において基盤となる、疾病の発生原因からその診断や治療法の原理について最新の研究やそのエビデンスについて取り上げ、疾病の発生から診断、治療、患者に起こる様々な変化等を分子からマクロに至る様々なレベルで理解し探求する基礎を身につける。(科目責任者 △8脇坂浩之)</p> <p>オムニバス方式／全15回 △8脇坂浩之／8回)</p> <p>がんの病態生理や診断方法、画像検査等の最新のトピックスや治療のメカニズム、副作用等の発現機序、さらに緩和治療やリハビリなどの最新理論とその理解について教授する。</p> <p>△7草薙康城／7回)</p> <p>がんを含む婦人科疾患を中心とした最新の疾病制御に関する研究成果やエビデンスを分子レベルからマクロレベルまで取り上げ、その理解について教授する。</p>	オムニバス 方式	

授業科目の概要

(保健医療学研究科看護学専攻)

科目 区分	授業科目の 名 称	講義等の内容	備 考
共 通 科 目	英文献講読	<p>(概要) 医療関連分野の英語論文の読み方について、論文中によく出てくる文法上の注意点、専門用語、英語論文特有の論理性や考察、表現、図表の表し方等について学び、英語で書かれた学術論文や専門書を原文で理解する能力を深める。(科目責任者 △8脇坂浩之)</p> <p>オムニバス方式&一部共同 全8回：オムニバス6回、共同2回 △6井出利憲／2回</p> <p>英字紙に掲載された医療に関する記事を題材として一般的に用いられる医療英語についての理解を深める。 △8脇坂浩之／4回</p> <p>医療関連の専門学術誌に掲載された英語論文題材として、英語科学論文に共通して広く用いられている論文のルールや構成、論理展開のパターン、図表の表し方などについて教授する。さらに、医療系英語論文で用いられる特有の表現方法や専門用語など、英語科学論文を読解するために必要な知識を教授し英語科学論文や専門書を独力で読解するために必要な能力を深める。 △3升野博志・△3野本百合子／共同2回</p> <p>医療技術科学分野あるいは看護学分野の英語論文を講読し、それぞれの分野において用いられている、さらに専門性の高い英語表現や論理展開の方法などについての知識を深める。</p>	オムニバス 方式・一部共 同
専 門 科 目	専 門 共 通	<p>看護管理の基本となる諸理論・視点について学び、看護に関する制度・政策から個々の部署管理及び看護実践までをつなげて理解する。これらを通して、効果的な看護管理のあり方、専門職業人として組織における望ましい行動のあり方を探究する。</p>	
	看護管理学特 論	<p>(概要) 科学的に検証された確かなケア技術を提供していくための方法論を探究する。最初に、基本概念としての「技術」の定義・構成要素・提供システム等の理解を深める。次に、具体的なケア技術を取り上げ、当該技術の国内外の研究成果のクリティークから、検証が不十分、または新たに付加できると予測される効果・価値を特定し、その明確化のために必要な課題とプロトコルを明らかにする。(科目責任者 △13岡田ルリ子)</p> <p>オムニバス方式／全8回 △20宮腰由紀子／4回</p> <p>基本概念としての「技術」の定義・変遷・構成要素・提供システム・開発過程について教授する。 △13岡田ルリ子／4回</p> <p>看護分野で特に関心が高い「皮膚・粘膜の保全」に関する技術の開発プロセスを例示し、各自が関心の高い技術を取り上げ、当該技術の検証が不十分、または新たに付加できると予測される効果・価値を特定し、その明確化のために必要な課題とプロトコルを明らかにする。</p>	オムニバス 方式

授業科目の概要

(保健医療学研究科看護学専攻)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門共通	看護研究方法論	<p>(概要) 看護研究における研究疑問から研究課題への絞り込み、文献検索の意義と方法、文献クリティークの指標と方法、課題に応じた研究方法・データ分析方法の選定と方法、倫理的配慮、研究計画書の作成等の概要を理解し、特別研究につなげる自身の研究計画書作成のための基本的知識と方法を身につける。</p> <p style="text-align: right;">(科目責任者 \triangle5越智百枝)</p> <p>オムニバス方式 全15回 \triangle5越智百枝/11回)</p> <p>研究プロセス、研究課題の絞り込み、文献検索の意義と方法、研究課題と研究方法、質的研究方法、質的研究論文のクリティーク、看護研究における倫理、研究計画書の書き方について教授する。</p> <p>\triangle8澤田忠幸/4回)</p> <p>量的研究論文のクリティークと研究方法(行動指標を対象とした実験研究、尺度構成を中心とした調査研究、仮説モデルの構成と検証を中心とした調査研究)を教授する。</p>	オムニバス方式
	理論と看護実践論	<p>(概要) 看護理論の機能や構造、活用の意義に関する知識に基づき看護の実践場面を分析し、看護が実践されている場に存在する問題や疑問の本質を追究し、それらを解決する方法を修得する。</p> <p style="text-align: right;">(科目責任者 \triangle3野本百合子)</p> <p>オムニバス方式&一部共同 全15回:オムニバス9回 共同6回 \triangle3野本百合子/7回)</p> <p>看護理論や研究成果への理解に基づいた、看護現象の構造化、現状分析から現状改善のための課題とまとめ</p> <p>\triangle1中西純子/2回)</p> <p>看護理論の実践への適用 \triangle3野本百合子・\triangle1中西純子/共同6回)</p> <p>理論・研究成果を用いて事例を分析し、その方法を修得する。</p>	オムニバス方式・一部共同
専門科目	臨床看護実践分野 育成支援看護学特論 I	<p>(概要) 子供の成長や発達及び家族を含めた環境を理解し、その知識を基盤として、子供特有の健康問題を解決するために必要な理論を学習する。特に、子供(個人)・家族・社会の関連性を視野に入れた学習を行うなかで、科学的根拠に基づいたアセスメント力を高める。</p> <p style="text-align: right;">(科目責任者 \triangle4豊田ゆかり)</p> <p>オムニバス方式/全15回 \triangle4豊田ゆかり/8回)</p> <p>子供・家族に必要なケアを実践するための重要概念を教授する。</p> <p>子供・家族に必要な支援を明らかにするアセスメント枠組みを用いた看護研究論文を用いて、実践の科学的根拠を探る。</p> <p>科学的根拠に基づいて子供・家族に必要なケアを判断するアセスメント枠組みを教授する。</p> <p>\triangle9枝川千鶴子/3回)</p> <p>子供の育つ環境と子育て支援を教授する。子どもの権利と看護について、倫理上の課題について教授する</p> <p>\triangle8澤田忠幸/4回)</p> <p>認知・精神分析発達理論について教授する。さらにことばと認知の発達を支える基盤と発達障害・家族システムの立場から、子供の精神発達を支える家族の役割を教授する。</p>	オムニバス方式

授業科目の概要

(保健医療学研究科看護学専攻)

科目 区分	授業科目の 名 称	講義等の 内容	備 考
専 門 科 目	臨 床 看 護 実 践 分 野	<p>育成支援看護学特論Ⅱ</p> <p>(概要) 子供の成長や発達及び家族を理解するための理論の理解に基づき、子供特有の健康問題を解決するための方策を学習する。特に、子供(個人)・家族・社会の関連性を視野に入れた学習を行う中で、小児看護の基盤となる理論と実践の関連性や今日的な課題について研究的視点をもって探究する。</p> <p style="text-align: right;">(科目責任者 \triangle4 豊田ゆかり)</p> <p>オムニバス方式/全15回 \triangle4 豊田ゆかり/8回)</p> <p>ライフイベントに応じた必要な支援を構築するためのコーディネート及びモニタリングについて教授する。</p> <p>臨床現場での体験を振り返り、看護理論を用いて整理することを試み、看護理論の臨床的活用を探る。</p> <p>\triangle9 枝川千鶴子/3回)</p> <p>子育て支援の実際を子育てプログラム「トリプルP」を例に教授する。また、実践の場における子どもの権利と看護について、倫理的側面から教授する。</p> <p>\triangle8 澤田忠幸/4回)</p> <p>乳幼児研究に関して行動学・脳科学からの示唆・幼児のコミュニケーション能力に関して、心の理論と実行機能の発達・児童期の認知・社会性の発達と9歳の壁について教授する。</p>	オムニバス 方式
	育成支援看護学特論Ⅲ	<p>(概要) 次世代を生き育てるという特徴をもつ時期を焦点に、親となる意識の形成に関する理論、思春期・母性意識・家族の発達理論の理解を通して、理論と実践の関連性や今日的課題について研究的視点をもって探求する。</p> <p style="text-align: right;">(科目責任者 \triangle4 中越利佳)</p> <p>オムニバス方式/全15回 \triangle4 中越利佳/8回)</p> <p>次世代を生き育てる役割をもつ女性の健康力向上に関連する主要理論やモデル、また思春期のジェンダーとセクシャリティに関して教授する、さらに臨床現場での体験を振り返り、理論を用いて整理することを試み、母性意識の向上に関連する理論の臨床的活用を探る。</p> <p>\triangle15 松村恵子/4回)</p> <p>子育ての今日的課題に関連する政策・社会制度及び母性意識に関連する主要概念・理論を概説する。さらに理論を通して子育て支援の実際をディスカッションする中で、理論と実践の関連性を教授する。</p> <p>\triangle8 澤田忠幸/3回)</p> <p>親になる意識の形成に関する理論やモデル、また女性のWell-beingと親になる意識との関係を夫婦関係との関連から教授する。</p>	オムニバス 方式

授業科目の概要

(保健医療学研究科看護学専攻)

科目 区分	授業科目の 名 称	講義等の内容	備 考
専 門 科 目	臨 床 看 護 実 践 分 野	<p>育成支援看護学領域（子供・母親）における現代の課題と対策について、先行研究及び理論についての文献クリティークや調査、フィールドワークを通して、課題に対する認識を深めるとともに解決のための方法論を身につける。</p> <p style="text-align: right;">(科目責任者 \triangle4豊田ゆかり)</p> <p>\triangle4豊田ゆかり・\triangle8澤田忠幸・\triangle9枝川千鶴子 \triangle14中越利佳／共同 30回)</p>	共同
	成熟期・慢性 看護学特論Ⅰ	<p>(概要) 糖尿病や脳卒中後遺症、認知症を抱える人に代表されるような慢性的な経過をたどる成熟期（成人期・老年期）の人とその家族が抱える課題を捉えるための重要概念・理論（病みの軌跡、セルフケア、自己効力感、成人教育、レジリエンス、保健行動論、ポジティブ・エイジング、パーソン・センタード・ケア、等）を理解し、成熟期・慢性看護学領域における看護を探究するための基盤となる知識を修得する。</p> <p style="text-align: right;">(科目責任者 \triangle1中西純子)</p> <p>オムニバス方式&一部共同/全 15 回：オムニバス方式 9 回、共同 6 回</p> <p>\triangle1中西純子/5 回)</p> <p>脳卒中後遺症など、慢性的な経過をたどる健康課題をもつ成人期にある人の対象理解と療養支援に関する重要概念・理論を教授する。</p> <p>\triangle10西田佳世/4 回)</p> <p>糖尿病や認知症など、慢性的な経過をたどる健康課題をもつ老年期にある人のライフステージと生活支援に関する重要概念・理論を教授する。</p> <p>\triangle1中西純子・\triangle10西田佳世/6 回)</p> <p>慢性的な経過をたどる健康課題をもつ成熟期（成人期・老年期）にある人のセルフマネジメント、セルフケア、教育に関する重要概念・理論を教授する。</p>	オムニバス 方式・一部共 同
	成熟期・慢性 看護学特論Ⅱ	<p>国内外の文献等を通して、脳卒中後遺症や糖尿病などの慢性的な経過をたどる成熟期（成人期・老年期）にある人とその家族が抱える症状マネジメント、生活の常態化などの健康課題や認知症や加齢に伴う生活機能低下（嚥下障害、転倒、排泄障害等）、人権・その人らしさの尊重、エンド・オブ・ライフケア等の健康課題の評価や専門的なケア提供の方法と課題、看護実践の評価、成熟期の看護実践における倫理的課題を探究し、臨床看護における適用を検討する。</p> <p style="text-align: right;">(科目責任者 \triangle1中西純子)</p> <p>\triangle1中西純子・\triangle10西田佳世／共同 15 回)</p>	共同
	成熟期・慢性 看護学特論Ⅲ	<p>(概要) がんは今や闘病過程の長い慢性疾患として捉えられており、本科目ではがんを慢性疾患モデルで捉え、命のある限りがんと共存しながらその人らしく生き続けるがんサバイバーの理解と支援について探究する。具体的には、まず、がんサバイバーシップの考え方を理解した上で、がん患者や家族の理解および看護援助に活用できる諸理論や概念を学び、自己の看護体験をこれらの諸理論や概念で意味づけることによって今後の実践適用について探究する。</p>	オムニバス 方式・一部共 同

授業科目の概要

(保健医療学研究科看護学専攻)

科目 区分	授業科目の 名 称	講義等の内容	備 考
専 門 科 目	臨 床 看 護 実 践 分 野	<p style="text-align: right;">(科目責任者 $\triangle 12$島田美鈴)</p> <p>オムニバス&一部共同方式 全 15 回：オムニバス 8 回 共同 7 回 $\triangle 12$島田美鈴／5 回) がんサバイバーシップの考え方とその背景、主要理論（危機理論、 ゆらぎ、不確かさ）の教授 $\triangle 23$藤田佐和／3 回) がん患者の看護の基盤となる考え方、主要概念の教授（セルフケ ア、意思決定支援等） $\triangle 12$島田美鈴／$\triangle 23$藤田佐和／共同 4 回) 主要概念について実践への応用・事例分析、がん患者と家族がも った力を引き出す看護の探求（フィールドワーク分析） $\triangle 1$中西純子／$\triangle 12$島田美鈴／$\triangle 23$藤田佐和／共同 3 回) 慢性疾患としてのがんの捉え方とその背景、がんの慢性的経過に 焦点を当てたがんサバイバーを支える看護モデルについて</p>	
	成 熟 期 ・ 慢 性 看 護 学 演 習	<p>特論Ⅰ・Ⅲ&Ⅱに併行して、取り上げる理論に関する事例検討や 文献講読、フィールドワークを行いながら、脳卒中後遺症、認知症、 がん等の慢性的な経過をたどる健康問題をもつ成熟期（成人期・老 年期）にある人とその家族の理解、及び理論を踏まえた援助方法に ついて理解を深める。また、専門的な知識を自らの看護実践に適用 し、看護実践を研究的視点で分析・考察することにより、エビデン スにもとづく専門的看護実践を展開する能力を養う。同時に、本分 野における実践のエビデンスや実態解明に関する論文を読みつつ、 クリティークする力を養い、自らの研究課題を明確にする。</p> <p style="text-align: right;">(科目責任者 $\triangle 1$中西純子)</p> <p>$\triangle 1$中西純子・$\triangle 40$西田佳世・$\triangle 12$島田美鈴／共同 30 回)</p>	
専 門 科 目	地 域 健 康 生 活 支 援 分 野	<p>精神看護学特 論Ⅰ</p> <p>人の心と身体はつながっている。ゆえに身体の病気であろうと、 心の病気であろうとも、互いの影響を考慮に入れ、看護を考えてい く必要がある。また、心の健康と不健康は連続線上に位置するもの であり、健康な人も心を病む人も心の健康を守る仕組みや機序は同 じである。人は、自分自身のことをもっともよく知り、セルフケア できる存在であること、また、病気をきっかけに、より高いレベル への成長・発達を遂げる。このような前提に立ち、精神看護の対象 を理解するために役立つ理論や概念について理解し学んだ理論を適 用して対象理解を深める。</p>	
	精神看護学特 論Ⅱ	<p>精神看護学特論Ⅰで学んだ対象理解に基づき、精神看護の対象及 びその家族が病気や障害を持ちながら、地域社会で生活することの みでなく、人として成長・発達していくことを支援するための概念 や理論を修得する。また、精神看護の対象やその家族に対する先駆 的な実践活動を文献学習し、学んだ理論や概念を適用した援助の方 法を考察する。</p>	

授業科目の概要

(保健医療学研究科看護学専攻)

科目 区分	授業科目の 名 称	講義等の内容	備 考	
専 門 科 目	地 域 健 康 生 活 支 援 分 野	精神看護学演習	精神看護学特論 I、II で学んだことを基に、精神看護の対象理解や援助にかかわる現象を扱った文献のクリティークを行い、精神看護領域の研究課題についての考察を深める。またそれらの課題の解決に適切な研究手法について、文献クリティークから検討するとともにフィールドワーク、データ分析の実際などをトレーニングし研究手法を修得する。	
		地域看護学特論 I	<p>(概要) 看護の対象としての集団・組織・地域を理解し、その顕在的・潜在的な健康課題を明らかにするための理論を学ぶとともに、地域診断から地域の健康課題をアセスメントする方法を学習し、理論に基づいてアセスメント・計画立案する力を高める。</p> <p style="text-align: right;">(科目責任者 Δ2野村美千江)</p> <p>オムニバス方式&一部共同 全15回:オムニバス13回、共同2回 Δ2野村美千江/6回)</p> <p>集団・組織・地域を対象とした地域看護の理論と地域診断、Community as Partner Model の活用例、健康に影響を及ぼす地域レベルの社会因子の診断を学ぶ。 Δ2野村美千江/Δ6宮内清子/共同2回)</p> <p>量的データと質的データの統合によるアセスメント、地域診断に基づく計画立案と施策化について学ぶ。 Δ1田中美延里/4回)</p> <p>文化ケア理論と民族看護学の地域看護実践例と研究例、地域診断への活用として、エスノグラフィー的接近や参加観察法・グループインタビュー法について Δ22牧本清子/3回)</p> <p>感染症サーベイランスや B 型肝炎・HCV のアウトブレイクなどを例に、疫学を活用した地域診断とその手法と評価について</p>	オムニバス方式、一部共同
		地域看護学特論 II	<p>(概要) 集団・組織・地域の健康課題を解決・改善するために必要な知識を学び、時代や社会が求める支援方法を理解するとともに、理論に基づく実践例や研究活用を通して、より効果的に支援する方法を探究する。</p> <p style="text-align: right;">(科目責任者 Δ2野村美千江)</p> <p>オムニバス方式/全15回 Δ6宮内清子/4回)</p> <p>愛媛における先駆的地域看護活動について2つの展開例を学ぶとともに、自主グループ・組織の育成による地域支援について農村型と都市型の支援の実際 Δ1田中美延里/2回)</p> <p>民間企業やNPOとの協働、ソーシャル・ビジネスによるイノベーションなど、資源の創出について Δ2野村美千江/9回)</p> <p>ヘルスプロモーション理論に基づく実践として、その企画と評価、環境整備、女性参画を促す戦略について学ぶ。また、コミュニティ・エンパワメントを高めるアクションリサーチについて、認知症地域ケアへの研究活用例を通して地域看護実践への適用や実践における倫理的課題</p>	オムニバス方式

授業科目の概要

(保健医療学研究科看護学専攻)

科目 区分	授業科目の 名 称	講義等の内容	備 考
専 門 科 目	地 域 健 康 生 活 支 援 分 野	<p>地域看護学特論Ⅲ</p> <p>(概要) 地域看護管理において重要な健康危機管理と人材育成に関する概念・理論を学ぶことにより、地域看護実践リーダーに求められる役割と課題を明確化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康危機事象のリスク管理や予防対策、発生時の対応、事後対策や復興支援、危機管理ができる人材育成などについて理解を深める。 ・人材育成の現状を理解し、経験の質を高める学習方法を学ぶことにより継続的に学習する力を高める。(科目責任者 <u>①</u>田中美延里) <p>オムニバス方式&一部共同/全15回:オムニバス14回 共同1回 <u>①</u>田中美延里/10回)</p> <p>地域看護の専門性の確立と発展、地域看護における人材育成に関する概念・理論、倫理的課題、生涯学習理論の活用と人材育成の現状と課題、保健師のキャリア発達支援、経験の質を高める方法について <u>④</u>竹崎久美子/2回)</p> <p>自然災害を中心とした健康危機への対処と人材育成 <u>②</u>野村美千江/2回</p> <p>地域看護実践における健康危機管理:健康危機事象のリスク管理の原則と体制づくり、災害各期における関係者・機関との協働の方法、災害時に求められるアウトリーチ機能、コミュニティの再生に向けた組織的支援、残された地域資源をつなぐコーディネーション <u>①</u>田中美延里/<u>②</u>野村美千江/共同1回)</p> <p>地域看護の専門性の確立と発展、地域看護実践リーダーに求められる役割と課題</p>	オムニバス方式、一部共同
	地 域 健 康 生 活 支 援 分 野	<p>地域看護学演習</p> <p>(概要) 地域看護学特論Ⅰ・Ⅱで学んだ理論や実践への活用を踏まえ、地域における種々の健康課題解決を図る方策や看護実践への研究成果活用について、討論を通じて探究するとともに、文献を批判的に読み、研究に対する洞察力を深める。(科目責任者 <u>②</u>野村美千江)</p> <p>オムニバス方式&一部共同/全30回:オムニバス14回 共同16回 <u>②</u>野村美千江/6回)</p> <p>地域看護学領域における研究課題を概観した後、学生が自らのフィールドにおいて実践している活動を事例に取り上げ分析する。 <u>②</u>野村美千江/<u>⑥</u>宮内清子/共同4回)</p> <p>フィールドワークによるデータ収集とアセスメント、活動事例の構造化と事例検討を通じ、集団・組織・地域を対象にした理論の応用を討論する。 <u>①</u>田中美延里/8回)</p> <p>省察的实践に向けて経験の質を高めるポートフォリオの意義とその作成方法、ポートフォリオの作成や文献渉猟と文献検討に関する個人ワークを行う。 <u>②</u>野村美千江/<u>①</u>田中美延里/共同12回)</p> <p>ポートフォリオの披露による経験知の交換、省察的実践や人材育成への活用に関するディスカッション、地域看護研究に必要な理論の実践活用に関する文献や各種研究方法を用いた地域看護研究論文のクリティークと討論、倫理的課題について学ぶ。</p>	オムニバス方式、一部共同

授業科目の概要

(保健医療学研究科看護学専攻)

科目 区分	授業科目の 名 称	講義等の内容	備 考
看護 教育 分野	看護教育学特 論 I	<p>(概要) 医療専門職者の職業的発達や学生の学習活動の支援に向け、教育の原点となる文献を講読し、看護学教育に必要な基本的知識を活用した教育活動について考察する。また、それらの知識を活用し、過去の教育活動を分析し、医療専門職者や学生に対する教育の展開方法を理解する。(科目責任者 △₃野本百合子)</p> <p>オムニバス方式・一部共同/全 15 回：共同 4 回 △₃野本百合子/9 回)</p> <p>看護教育学の理論的背景、専門職教育の基盤となる文献を講読し、学生や医療専門職者に対する教育を企画・設計・展開する際に活用できる知識を整理する。 △₇北原悦子/2 回)</p> <p>効果的な授業展開を行うための教育方法、教材作成について学習する。 △₃野本百合子・△₇北原悦子/共同 4 回)</p> <p>看護教育学の既習知識を基盤に、学生や医療専門職者の職業的発達を支援するために過去に展開してきた教育活動を分析する。</p>	オムニバス 方式・一部共 同
	看護教育学特 論 II	<p>(概要) 看護教育学特論 I の学習内容を基盤に、医療専門職者に対する継続教育や学生に対する基礎教育の仮想状況を設定し、効果的な授業や研修会を展開するために、模擬的な教育課程や授業を設計し、その計画に沿って授業を実施する過程を通して実際に教育を展開する方法を修得する。</p> <p style="text-align: right;">(科目責任者 △₃野本百合子)</p> <p>△₃野本百合子・△₁₃岡田ルリ子/共同 15 回)</p>	共同
	看護教育学演 習	<p>看護教育学特論、ケア技術開発特論の学習内容を基盤に、看護専門職に対する基礎教育・継続教育・看護技術教育に関わる現象について、焦点を絞ってさらに追究する。同時に、これらの文献のクリティークを通じて、多職種が協働する実践現場における課題の解決に適切な研究手法を検討する。</p> <p style="text-align: right;">(科目責任者 △₃野本百合子)</p> <p>△₃野本百合子・△₁₃岡田ルリ子・△₇北原悦子/共同 30 回)</p>	共同
研 究 科 目	特別研究	<p>(概要) 学生は、以下に掲げる各教員の研究領域のなかから一つを選択し、各自の専門領域における研究課題を探究し、新しい知見を導き、研究論文を作成する。この過程を通して自身の専門性を高めるとともに、地域の保健医療に寄与できる研究力の修得を図る。</p> <p>△₁中西純子)</p> <p>慢性的な経過をたどる人への看護領域のなかから、主として、脳卒中など中途障害からの回復支援、後遺症を残した人の生活行動の再獲得や生活再構築支援について研究指導する。</p> <p>△₂野村美千江)</p> <p>地域で暮らす高齢者や障害者の家族支援や地域ケアプログラムの評価・開発について研究指導する。</p>	

授業科目の概要

(保健医療学研究科看護学専攻)

科目 区分	授業科目の 名 称	講義等の内容	備 考
		<p>③野本百合子)</p> <p>看護基礎教育、看護継続教育など、看護の教育に関わる現象について、看護専門職者の職業的発達を支援するための根拠となる研究を実施するための研究指導を行う。</p>	
		<p>④豊田ゆかり)</p> <p>医療的ケアが必要な在宅で生活する子どもと家族の看護に関する研究を指導する。</p>	
		<p>⑤越智百枝)</p> <p>精神看護の対象への看護領域のなかから、主にアルコール依存症等の精神疾患を持つ患者及び家族の対象理解や成長発達を促すあるいは回復を促す看護について研究指導する。</p>	
		<p>⑥宮内清子)</p> <p>公衆衛生看護学領域における地域や住民の健康課題の分析（地域診断）および活動計画作成過程について研究指導を行う。</p>	
		<p>⑦北原悦子)</p> <p>看護教育における効果的な教育方法、教材作成方法について研究指導する。</p>	
		<p>⑧澤田忠幸)</p> <p>生涯発達心理学領域のなかから、乳幼児期の精神発達あるいは成人期の人格発達に関する研究テーマ（例、感情制御能力の発達、親意識の発達、職業を通じたウェルビーイングの発達）を設定して研究を行う。</p>	
		<p>⑨枝川千鶴子)</p> <p>子どもと家族の健康支援領域のなかから、主として健康障害をもつ新生児及び乳幼児と家族の看護に関する研究を指導する。</p>	
		<p>⑩西田佳世)</p> <p>糖尿病をもつ青年期、壮年期、老年期の各発達段階におけるセルフケア及び療養支援に関する研究や高齢者の終末期ケアに関する研究を指導する。</p>	
		<p>⑪田中美延里)</p> <p>地域看護学領域のなかから、主として、保健師のキャリア発達支援、継続教育について研究指導する。</p>	
		<p>⑫島田美鈴)</p> <p>慢性看護学領域のなかから、慢性疾患としてのがんに関心をあて、がんサバイバーの抱える心理社会的問題を中心に、がんとともに生きていくための支援に関する研究指導を行う。</p>	

授業科目の概要

(保健医療学研究科看護学専攻)

科目 区分	授業科目の 名 称	講義等の内容	備 考
		<p>⑬岡田ルリ子) 看護技術の科学的根拠の明確化、及び新たな看護技術の開発に向けた研究を指導する。</p>	
		<p>⑭中越利佳) 思春期の健康教育と親性準備の発達支援、子宮頸がん予防行動に関する研究を指導する。</p>	

授業科目の概要			
（保健医療学研究科医療技術科学専攻）			
科目 区分	授業科目の 名称	講義等の内容	備 考
共 通 科 目	（ 9科目 ）	（ 共通科目は、看護学専攻に同じ。 ）	
専 門 科 目	専 門 共 通	<p>臨床検査技術 学特論</p> <p>（概要）本特論では、腫瘍・感染症・免疫疾患等に対して科学的に 検証されてきた新規検査技術の原理を理解するばかりでなく、その 技術の問題点を抽出・解決できるための考察能力を深める。また、 現場においてより適切な情報等を医師や患者に還元できる高度な専 門性（プロフェッショナル）を培うことを目標とする。 (科目責任者 $\triangle 2$則松良明)</p> <p>オムニバス方式 全15回 $\triangle 2$則松良明／4回) 病理組織・細胞診を用いた検査方法論とそれらを用いた疾患の推 定、検査方法の標準化と精度管理について $\triangle 4$玉内秀一／4回) 基礎免疫学の十分な理解と免疫学的検査の原理やその診断結果、 臨床応用について $\triangle 4$高田智世／4回) 遺伝子検査技術の意義と特徴、遺伝子検査技術の臨床応用につ いて $\triangle 1$佐田榮司／3回) 生化学的、免疫学的あるいは遺伝子検査によるデータ解析及びそ れらと生理学的検査との関連、データ解析から診断への道筋につ いて</p>	オムニバス 方式
	医療技術科学 研究方法論	<p>（概要）動物や培養細胞、病理組織等を用いた基礎研究を扱い、研 究疑問から研究課題への絞り込み、課題に応じた研究方法・デー タ分析方法の選定等の研究計画作成、倫理的配慮、実施、結果のま とめ、公表までの一連のプロセスに沿った研究能力を養う。 (科目責任者 $\triangle 3$升野博志)</p> <p>オムニバス方式 全8回 $\triangle 3$升野博志／4回) 生化学分野・分子生物学分野の研究の具体例を紹介し、研究課題 の見つけ方、研究計画の立て方、研究方法、データの解析方法、研 究成果のまとめ方、文献の検索方法などを教授する。 $\triangle 10$大崎博之／4回) 病理学分野の研究の具体例を紹介し、研究課題の見つけ方、研究 計画の立て方、研究方法、データの解析方法、研究成果のまとめ方、 文献の検索方法などを教授する。</p>	オムニバス 方式

授業科目の概要

(保健医療学研究科医療技術科学専攻)

科目 区分	授業科目の 名 称	講義等の内容	備 考
専 門 科 目	専 門 共 通	先端医療科学特論 (概要) 医学・医療分野の最近の進歩は著しく、毎年のように画期的な発見がある。これらの多くは、従来の常識や予想を超えた画期的なもので、基礎医学・生命科学分野のパラダイムシフトをもたらしただけでなく、医療分野への実用化、応用化に大きな期待が寄せられている。これら最近の進歩の真の価値・意味を理解することは、医療人として生命を深く理解する上で必須だけでなく、今後の医療分野の展開を理解するためにも必要である。ノーベル生理学・医学賞などから近年のテーマを選択して、研究の背景・内容・意義・価値・今後の展開・医療応用の可能性などを丁寧に解説する。	
	医療情報学特論 近年、医療の分野への情報処理技術の利用・応用が急速に進みつつある。医療の高度化と複雑化に伴い、医療情報の増加、病院の各部門や医療施設の連携が進行している。医療情報学の中核となる医療情報システム（病院情報システム等）について知識を深め、医療の世界に対応できる人材の養成を目標とする。		
専 門 分 野	病 因 解 析 分 野	遺伝子生命科学特論 ヒトを含めた生物の構造と機能は遺伝子によって規定され、種の違いも個人差の多くも遺伝子の違いによる。ただ、一人のヒトを構成する細胞はすべて同じ遺伝子を持つにもかかわらず、多種類の個性的な分化細胞から構成され、分化した肝細胞は肝細胞しか生まない。この背景は、遺伝学（ジェネティクス）ではなくエピジェネティクスである。ヒトという多細胞生物の構造と機能をつかさどる主役であるエピジェネティクスについて、近年その機構が明らかになりつつあり、予想外に多くのヒト疾患がエピジェネティクスの異常と関わることがわかってきた。今日の生命科学の中心課題として、エピジェネティクス研究の現状について探究する。	
	遺伝子生命科学演習 本演習では、エピジェネティクスを中心に生命科学に関わる欧文論文について内容を理解しながら読みこなせるように訓練する。Nature 誌などの短い論文（4ページ程度）からスタートし、論文の背景や周辺情報を含めて丁寧に説明・解説する。慣れるに従って、次第に長い論文に挑戦し、学生自身が解説する時間を増やして、やがては欧文論文を自在に読みこなすことを目指す。これらを通して学生が自ら研究を進め、論文を書く力を養う。		
	分子細胞生物学特論 肥満、脂質異常症などの生活習慣病は増加の一途をたどっている。これらの疾患の病態生理を理解することは生活習慣病の予防の観点からも重要である。そのため、これらの疾患の発症メカニズムを分子レベルから生体レベルまで幅広く学習する。また、リポ蛋白質代謝と脂質の膜輸送を学習し、脂質代謝異常と粥状動脈硬化症・心筋梗塞・脳梗塞の関連についても理解する。		
	分子細胞生物学演習 分子細胞生物学特論で学習した内容に沿った国内外の英語論文を各自が調査・分析し、最新の研究手法や研究成果などについて発表し、演習を通して英語論文の読み方、作成の仕方などを身につける。		

授業科目の概要

(保健医療学研究科医療技術科学専攻)

科目 区分	授業科目の 名 称	講義等の 内容	備 考
専 門 科 目	病 因 分 解 分 野	組織病理検査学特論 疾患の病因・病態を組織形態学および分子組織学的観点からその変化を捉え、疾病の本態について理解する。また診断や治療に直結する検査法(免疫組織細胞化学、ISH、FISH、遺伝子解析等)について学習し、考察を深める。さらに、これらの知識の統括、活用に基づいて、実践現場における疾病の予防、早期発見、治療、病態解析に有用な病理組織検査を実施、開発できる高度な専門性を養う。	
	細胞診検査学 特論	疾患の病因・病態を新しい細胞診標本作製法である Liquid based cytology (LBC) 法を用いた、細胞形態学および分子細胞学的観点(免疫細胞化学、ISH、FISH、遺伝子解析等)からその変化を捉え理解し、考察を深める。これら知識の統括に基づいて、実践現場における疾病の予防、早期発見、治療、病態解析に有用な細胞診検査を実施、開発できる高度な専門性を養う。	
	組織病理・細胞診検査学演習	組織病理検査学特論・細胞診検査学特論で学習および考察した知識をもとに、婦人科・泌尿器疾患に関する細胞や組織の変化について形態学的解析能力を育成するとともに、婦人科疾患における内視鏡検査や画像検査と病態について総合的に理解する。また、それらの領域に関する英語研究論文を各自が調査・分析し、最新の研究手法や研究成果などについて発表する。 (科目責任者 \triangle 2則松良明) \triangle 2則松良明・ \triangle 10大崎博之・ \triangle 7草薙康城/共同 30回)	共同
生 体 機 能 分 野	生体防御学特論	生体防御機構に関する免疫系(自然免疫と適応免疫)の相互作用について理解を深め、感染症、臓器移植、自己免疫性疾患、アレルギー等の免疫疾患について考察する。また、高度な専門性を必要とする職業を担うために最新の免疫学的知見を導き出した生物学・医学分野に対する学問的興味をも深める契機とする。免疫学では、マウスの研究を中心として進歩を今なお続けているが、臨床への応用・還元と言う点では未だ不十分である。学生がチャレンジできるヒト免疫学(臨床免疫学)の研究領域について理解を深める。	
	生体防御学演習	生体防御学特論で学んだ内容を基にして、興味をもった疾患や生物学現象に関する国内外の論文を検索する。その結果を導き出した研究手法や結果の妥当性について考察・理解を深めるとともに現場における問題を解決する方法を提案できる能力(医師や患者に対して適切なアドバイスできる能力)を身につける。	

授業科目の概要

(保健医療学研究科医療技術科学専攻)

科目 区分	授業科目の 名 称	講義等の内容	備 考
専 門 科 目	生 体 機 能 分 野	感 染 制 御 学 特 論	
		感 染 制 御 学 演 習	
		生 体 機 能 検 査 学 特 論	オ ム ニ バ ス 方 式
		生 体 機 能 検 査 学 演 習	共 同

病院などの医療関連施設において抗微生物薬剤に対して低感受性および耐性を持つ微生物による施設内感染事例が問題となっている。そこで、これらの原因微生物の種類・菌の特徴および抗菌薬に対する薬剤耐性因子・薬剤耐性機構などについて遺伝子学的レベルで理解すると共に施設内感染発生時における分子疫学調査の方法および対処方法について学習する。また、臨床検査技師がインフェクションコントロールチームの中においてどのように感染制御に実践者として係わるのか等について検討し臨床検査室に於ける感染制御のリーダーシップがとれる能力を習得する。

感染制御学特論で学習した内容に沿った国内外の英語論文を各自が調査・分析し、抗菌薬に対する薬剤耐性因子・薬剤耐性機構および分子疫学調査の方法などについて考察するとともに最新の研究手法や研究成果などについて発表し、演習を通じて感染制御に於いて実践者としての知識を身につける。さらに医療現場において感染制御についての問題点を解決する方法を提案できる能力を養うとともに臨床検査室に於ける感染制御のリーダーシップがとれる能力を身につける。

学部で学んだ生理機能検査学をさらに深く理解することで臨床での応用力を高めるとともに、当該分野の研究を実施する能力を養うことを目標とする。本特論ではすでに確立された生体情報論にとどまらず、新たな検査方法の開発等、細胞から臨床にいたる循環器系の生体情報解析について教授する。本特論で新たな検査法の開発や新しい視点からの生体情報の解析法を開発する能力と総合的見地から生命現象を見つめる洞察力を修得できる。

(科目責任者 \triangle 米持英俊)

オムニバス方式／全 15 回

\triangle 米持英俊／13 回)

循環器系疾患、特に心筋の疾患に注目し、体表面心電図、超音波検査像など循環器に関する生理検査情報を解析し、その本質を深く追求・探求する。疾患の本態を知ることから新しい検査法の開発、新たな生体情報の解析法を開発する能力を身につける。更に今後の生理機能検査法の発展・展望についても言及する。

\triangle 野島一雄／2 回)

心電図及び体表面電位から得られる生体情報の中から、不整脈に関する情報に注目し、その病態の本質を深く追求し、疾患の原因について探求する。疾患の本質を知ること、新たな生理機能検査法の研究・開発、情報の解析法の開発につながる能力を身につける。

生体機能検査学特論等で修得した知識を応用・発展させて実践的な方法論や解析法を身につける。各自の研究課題に関連する過去の代表的な論文について学び、その論文の卓越している点や問題点を的確に判断する能力を養う。教育効果を高めるために模擬研究を取り入れた。具体的には選択した模擬研究テーマを解決するための計画立案、データの処理・解析、図表の作成と発表を学生が主体とな

授業科目の概要

(保健医療学研究科医療技術科学専攻)

科目 区分	授業科目の 名 称	講義等の内容	備 考
専 門 科 目	生 体 機 能 分 野	<p>って実施する。△5米持英俊、△1野島一雄／共同 30 回)</p>	
		<p>病態情報解析 特論</p> <p>(概要) 血液、体液などの生体成分を様々な検査法で解析し、得られた生体情報から各種疾患の臨床病態を深く追求して疾病の本態を解明・理解する方法を、代表的な疾患及び病態をモデルケースとし学ぶ。また、それらの病態での分子、細胞、臓器、個体における生体情報を、遺伝子、染色体、蛋白、細胞レベルで解析を行い解明する手法について学ぶ。さらに、不明な病態を解析し解明するための新たな解析法開発の現状や解析法開発の考え方・方法論についても修得する。</p> <p style="text-align: right;">(科目責任者 △1佐田榮司)</p> <p>オムニバス方式 全 15 回 △1佐田榮司／10 回)</p> <p>血液、体液など生体成分を様々な検査法で解析し、得られた生体情報を用いて各種疾患の病態を深く追求して疾患の本態について探究し解明・理解する手法について教授する。また、新たな解析法の開発の現状及び今後の展望についても言及する。</p> <p>△14高田智世／5 回)</p> <p>様々な分子、細胞、臓器、個体レベルでの解析法のなかで、特に遺伝子、染色体レベルでの解析が病態の解明・理解に重要な役割をもつ分野の疾患を中心として教授する。さらに、これらの解析法の理論と応用、さらに今後の発展・展望についても言及する。</p>	オムニバス 方式
		<p>病態情報解析 演習</p> <p>患者の血液・体液成分を分析することにより得られた検査データ、生理的検査、画像データに関して、実際の事例を基に総合的に診断を行う能力を身につけ、さらに関連文献を精査検討し患者から得られたデータのより深い解析手法について学ぶ。そのプロセスを通じて、成書、論文を批判的に吟味する能力を身につけ、新たな発見につなげる。</p> <p style="text-align: right;">(科目責任者 △1佐田榮司)</p> <p style="text-align: center;">△1佐田榮司・△14高田智世・△8脇坂浩之／共同 30 回)</p>	共同
<p>環境保健学特 論</p> <p>種々の環境要因が我々の生活環境に存在し、健康に影響を及ぼしている。環境要因を正確に把握し評価することは、環境の保持と健康な生活にとって重要である。本特論では、生活環境の中で健康に影響を及ぼす社会的環境要因や化学的環境要因を理解する能力を養う。更にそれらの測定法、測定結果の評価法、対策などの情報を提供し、良好な環境を維持しかつ環境に関する諸問題を解決する能力の向上をめざす。</p> <p style="text-align: right;">(科目責任者 △13加藤徳雄)</p> <p>オムニバス方式／全 15 回 △12鳥居順子／5 回)</p> <p>生活環境の中で健康に影響を及ぼす社会的環境要因と健康づくりのための社会環境整備など △13加藤徳雄／10 回)</p> <p>生活環境の中の汚染物質やその測定法、測定結果の評価法、削減対策など</p>	オムニバス 方式		

授業科目の概要

(保健医療学研究科医療技術科学専攻)

科目 区分	授業科目の 名 称	講義等の内容	備 考
	環境保健学演習	<p>環境保健学特論で学んだ内容を基にして、興味をもった環境汚染物質やそれによる疾患に関する学術誌内の論文を検索する。その結果を導き出した研究手法や結果の妥当性について考察・理解を深める。また、河川水や大気を現地で採取し、前処理ののち分析機器による定量を実践し、データ解析の能力を高めることで現場の指導的役割に資する。</p> <p style="text-align: right;">(科目責任者 $\triangle 13$加藤徳雄)</p> <p style="text-align: center;">$\triangle 13$加藤徳雄・$\triangle 12$鳥居順子／共同 30回)</p>	共同
専門 科目	研究 科目	<p>特別研究</p> <p>(概要) 学生は、以下に掲げる各教員の研究領域のなかから一つを選択し、各自の専門領域における研究課題を探究し、新しい知見を導き、研究論文を作成する。この過程を通して自身の専門性を高めるとともに、地域の保健医療に寄与できる研究力の修得を図る。</p> <p>$\triangle 1$左田榮司)</p> <p>自己免疫疾患、膠原病・アレルギー疾患の病態、病因に関する研究に関する論文作成指導を行う。</p> <p>$\triangle 2$則松良明)</p> <p>種々の臓器での癌及びその前癌病変における細胞診断基準の策定に関する研究の論文作成指導を行う。</p> <p>$\triangle 3$升野博志)</p> <p>肥満・脂質異常症の発症と環境ホルモンとの関連に関する研究あるいは各種薬剤の骨肉腫転移抑制のメカニズムに関する研究の論文作成指導を行う。</p> <p>$\triangle 4$玉内秀一)</p> <p>遺伝子改変動物等を用いたヒト免疫疾患モデルの構築とその発症機序について研究指導を行う。</p> <p>$\triangle 5$米持英俊)</p> <p>基礎と臨床の両面から循環器疾患を中心とした生活習慣病に関する研究及び論文としてまとめる過程を指導する。</p> <p>$\triangle 6$井出利憲)</p> <p>生命科学分野のなかから、ヒト細胞の老化と不死化の遺伝子機構、細胞分化とエピジェネティクス、細胞癌化に関わる癌遺伝子と癌抑制遺伝子などの分野について研究指導する。</p> <p>$\triangle 7$草薙康城)</p> <p>子宮内膜症、子宮頸癌等の病態、診断、病因に関する研究について論文作成指導を行う。</p> <p>$\triangle 8$脇坂浩之)</p> <p>頭頸部がんを中心に、がんの病態、診断、病因に関する研究について論文作成指導を行う。</p>	

授業科目の概要

(保健医療学研究科医療技術科学専攻)

科目 区分	授業科目の 名 称	講義等の内容	備 考
		<p>(9)北尾孝司) 病院内感染及び地域における食中毒等の感染症を防止するための対策、また病院内感染の起炎菌の特性・疫学的調査に関する研究の指導を行う。</p>	
		<p>(10)大崎博之) 尿中に出現する細胞 (podocyte、尿細管上皮細胞、組織球、赤血球) や円柱などと各種糸球体腎炎の関連性についての研究と論文作成指導を行う。</p>	
		<p>(11)野島一雄) 環境ホルモンの不整脈に対する影響に関する研究について指導する。</p>	
		<p>(12)鳥居順子) 成・老年期の健康増進及び非感染性疾患 (NCD s) 予防の社会医学的アプローチに関する研究指導を行う。</p>	
		<p>(13)加藤徳雄) 環境中の汚染物質の濃度を測定するための定量方法に関する研究指導を行う。</p>	
		<p>(14)高田智世) 骨代謝などの代謝性疾患を中心に、遺伝子発現解析や生化学的分析による研究指導を行う。</p>	